



### 隣地駐車場の賃貸契約、全会一致で可決

1月29日(月)、午後1時30分より臨時総会が開催され、議案「会館隣地駐車場の賃貸契約承認の件」が全会一致で可決された。

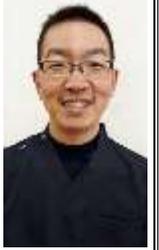
臨時総会は34名が出席(委任状635名)し、神谷徳太郎総務部員の司会にて開始。森川会長は冒頭の挨拶で、柔整業界の現状と制度改革(養成学校の改革を含む)、本会の財政状況について述べた。正副議長の瀧巧会員(大曾根)、竹内健二会員(刈谷)の進行のもと、議案「隣地駐車場賃貸契約」について、早川岩雄総務部長が事前に送付した資料に基づき詳細を説明した。

2通の質問状に早川部長が回答したあと、会長と両副会長が本会の現状や駐車場の賃貸に至った経緯、将来の展望などについて、それぞれ考えを述べ会員に理解を求めた。

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
吉田哲也	S47.5.23	大曾根	米田柔整	1級	バレーボール
小栗宜典	S47.1.23	大曾根	名古屋医専	—	花火打上げ
早川 優	S57.5.18	笠寺	米田柔整	式段	映画鑑賞

### Welcome!! 新入会員

小栗宜典会員(左)  
早川 優会員(右)



吉田哲也  
会員

### あなたの申請書大丈夫ですか?

第5回業界説明会

2月4日(日)午前10時から正午まで、会館講堂において第5回業界説明会(皆さんの未来のために)が開催され、個人契約者42名と会員の勤務柔道整復師13名、合わせて55名が参加した。今回は「制度改正元年 あなたの申請書大丈夫ですか?」と銘打って、早川総務部長の司会進行のもと4名の役員が以下のテーマで説明した。



#### ○概要説明(森川会長)

開会の挨拶とともに、柔道整復師が増加した経緯や現状などを解説。ひとつにまとまってみんなで協力していかなければならないと組織への加入に強く理解を求めた。

#### ○公的審査会の権限強化について(藤川副会長)

平成29年9月発出の「療養費制度一部改正について」の内容を詳述したあと、審査会が必要と認めるときは開設者や管理柔整師等から報告を徴することができることや、概ね10人の患者分で不正請求の疑いが強いものを優先して審査・指導監査することなど、制度改正による審査会の権限強化の内容を詳解した。

#### ○疑義を持たれない申請書の書き方(長谷川副会長)

先般送付された全国健康保険協会愛知支部(協会けんぽ)からの「柔道整復施術療養費の支給申請について(情報提供)」を提示し、記載されている疑義を生じやすい10項目を中心に、適正な記載方法や考え方を解説。柔道整復術に基づいた施術であることが読み取れる請求内容であることが大前提であると述べた。

#### ○違法広告排除の動き(山口保険部長)

名古屋市の広告規制に関わる今後の動きや、健保連愛知と協会けんぽが共同で実施している実地調査の状況等を紹介し、会員から提供された違法なチラシを例示して好ましくない文言などを指摘。法令を順守した広告掲示に努めるよう注意喚起した。

#### ○介護予防事業、参入方法と展望(長瀬介護部長)

公的に認められた新たな職域としての機能訓練指導員の職能と需要を説明し、本会の介護予防事業への参入実績を示したあと、介護予防・日常生活支援総合事業の、とくにサービスA(ミニデイ型)について県下市町の単価や収益額を紹介。事業への参入は個人では難しく組織だからこそ可能となることを強調した。

### 全員参加型の講演で日用品活用法を学ぶ

第12回県民公開講座/第89回会員研修会



2月18日(日)午前10時から11時30分まで、ウインクあいち5階小ホール2にて、第12回県民公開講座(第89回会員研修会)が開催され184名(会員127名、一般57名)が参加した。今回は、藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科の羽田道信(はだみちのぶ)教授を講師に迎え、「災害に備える!防災・救急に役立つ日用品活用法」と題して講演が行われた。

事前に全参加者に風呂敷やポリ袋、ロープ、ハサミが配られ、羽田先生が壇上で実演し説明する日用品を使った持ち出し袋や防寒着などを実際に作る全員参加型の講演は、参加者にとって珍しく大変楽しい講演となった。また地域の防災訓練で住民に応急救護のレクチャーするわれわれにとっても今後の参考になる非常に有用な内容であった。

#### 【実演指導の内容】

風呂敷で作る非常持ち出し袋/レジ袋の活用法/パンティストッキング活用法/雑誌を使った副子固定/食品用ラップ活用法/ゴミ袋で作る防寒着、カッパ/煙からの避難方法/ロープ活用法/毛布を使った防寒着の作り方



1月30日付、読売新聞より(一部改変)

16年(平成30年)1月30日(火曜日) 愛知

「仏手仏心 後輩に伝え 齋藤哲也さん(柔道整復師)」

「私のような者が、このように世をいたっていいのでしょ?とよく聞かれます。動物が好きで、敬愛するものに育ちました。高校2年生時に柔道整復師になることを決意し、2年間の勉強を経て、現在は日本柔道整復師会副会長の職に就いています。現在は日本柔道整復師会副会長の職に就いており、日本の柔道整復師会全体の技術向上に向けて活動しています。」

自身の指導で指導する傍ら、母校の講師や教員として、後進の育成に力を注いでいる。また、自身の経験から、後進の育成に力を注いでいる。また、自身の経験から、後進の育成に力を注いでいる。

医療功労賞に2人

齋藤哲也元理事(元学術部長・中村)が、本会の推薦により長年にわたって地域の医療活動に貢献したとして、「第46回医療功労賞」(読売新聞主催)を受賞し、2月2日、同じく受賞した蒲郡市民病院院長とともに読売新聞社中部支社で表彰された。

### 齋藤哲也 元理事、「医療功労賞」を受賞

齋藤元理事は昭和48年、米田柔整専門学校を卒業後、米田病院に入局。5年の研修を経て西区で開業。また同年米田柔整の非常勤講師を務め、以来39年間、4,000余名もの柔道整復師を輩出した。本会では平成13年に理事、平成15年に常任理事・学術部長に就任。愛整学会誌の創刊に貢献した。現在は学術部のアドバイザーを務める。



また平成14年より日本柔道整復接骨医学会評議員に就き、平成26年には理事に就任し、柔道整復学の進歩普及と発展に寄与している。受賞の挨拶では、「学問を尊重して、技術の向上と後進の育成に一層励みたい」と抱負を述べた。